

創学舎ニユース

No.245

大学入試最終結果

〔国立大学〕

- 東京大学 一名
- 千葉大学 一名
- 東京工業大学 一名
- 埼玉大学 一名
- 東京農工大学 一名
- 東海大学 一名
- 大阪府立大学 一名
- 横浜国立大学 一名
- 茨城大学 一名

〔私立大学〕

- 早稲田大学 一名
- 慶應大学 一名
- 学習院大学 一名
- 上智大学 一名
- 立教大学 一名
- 明治大学 一名
- 法政大学 一名
- 青山学院大学 一名
- 中央大学 一名
- 津田塾大学 一名
- 東京理科大学 一名
- 東邦大学 一名
- 明治学院大学 一名
- 成蹊大学 一名
- 日本女子大学 一名
- 成城大学 一名
- 東京女子大学 一名
- 日本大学 一名
- 専修大学 一名
- 駒澤大学 一名
- 文教大学 一名
- 國學院大学 一名

分割と進化(または深化)

生物

単細胞から多細胞へと生命体は進化してきた。我々ヒトの固体は現在のところ約六十兆個・二百種類の細胞から構成されていて、菌類や微生物にはない複雑な臓器を持ち、(おそらく)高度の活動をしている。

道具

道具の進化(バージョンアップ)も、例えばデジタルカメラなどは、百二十万・二百万・四百万・六百万と画素数を増やすことでその性能を上げてきている。粗い例え・説明になるが、レンズの向こうの風景を二百万区画に分割していたものを、さらに細かく分割して三倍の六百万区画に分け、六百万人の作業員を動員し、情報収集、報告、編集などの作業をカメラの中で行っていると言えるだろう。人間なら人数が増えるを手を抜く者もでてくるだろうが、そこは機械なので六百万人が皆しっかり働き、解像度も鮮明さもアップし、レンズの向こうの風景を細かい部分まで、より忠実に再現できるのだ。

言葉

言語学の本の中には、「その個人の持つ言葉によって世界は切り取られ、目の前の風景が構築される」とか、「語彙の量で思考の深さ、思いめぐらす範囲が決まる」という表現がでてくる。(少し極端かな、と思わなくもないが...)。車を見て「ブーブー」としか言えなかった幼児が、「パトカー」「消防車」などの区別をつけられるら分かりやすいので、各メーカーの名前を

覚えたり、国産車と輸入車という概念を手に入れ、さらには、ある特定の欧州車の辞書的意味ではない文化的コードを名前(言葉)とともに身につけていく例は多い(男子の場合)。

スケールの小さい個人的な体験もある。中学生の頃、校長先生の「え、思春期真っ只中の皆さんだからこそ、え、もっと紳士的にですね、え」という話を聞いて、「思春期って何だ?」と思った私は、辞書で「思春期」という言葉を調べた。新しい言葉を知るのは新しい概念を手に入れることでもある。次の日から思春期の少年としての学校生活が始まると思ったのだが、「紳士的」を何かはきちがえたらしく、隣の席の女子から「オマエ、なんか変だぞ。」と言われてただけだった。しかし家では、4姉や妹達の会話の中に、「トリートメント」そしてさらに「コンディショナー」というものがこの世に存在することを知った。風呂に入りながら備品をよく見ると、確かにリンス以外の「トリートメント」と「コンディショナー」なるものが置いてあった。それまでは「あれども見えず」だったのだ。「あいつら(姉妹たち)いつのまにこんなものを!」と思った。思春期の少年は、せいぜい二センチしかない坊主頭に迷うことなく使ってみた。違いは分からなかった。

「心を砕く」

言葉に「風景を細分化して捉える効果がある」ということが仮に本当だとしても、語彙の量だけが情緒や感性の全てを決定するわけではない。語彙は多いほうがいいだろう。ただし、しかしである。「心を砕く」「心を砕いて生きる」という言葉に表現されるよう、分割すべきは、

豊かにすべきは語彙だけではない。恥ずかしながら、今現在の、そしてこれからずっと死ぬまでの私の課題である。(五日市)

私の学んだこと 2

以前、この創学舎ニユースで「内観法」について書いたことがあります。「内観法」とはどういうものか、あらためて説明しますと、身近な人達について、

- その人からしていただいたこと
- その人にしてさしあげたこと
- その人に迷惑をかけたこと

という三点について、これまでの自分の人生をふりかえりながら、思い出していくというものです。この作業を通じて自分自身を知り、幸せに生きることができるようになることを目標としています。

ところで人間はだれでも自分の人生をよくしたいと思っているとします。しかし、残念ながら自分の人生を自分で悪くする人もたくさんいます。一方で、人生をよくしていく人もいます。「内観法」に出会うまでの自分は悪くするほうであったと思いますし、今でもよくしているかと問われれば、「?」がついてしまうかもしれません。しかしよりよき人生をという思いは以前より強くなっていると思います。

ではどのような心がけて日々の生活を生きていけばよいのでしょうか。ある人が「三つの幸せ」ということから、その心がけについて話されたものがあります。「内観法」と重なるものが多く、

私自身、感銘を受けたものなので紹介したいと思います。

「三匹の幸せ」の二つめは、「してもいい幸せ」といつことです。「内観法」では最初に思い出していくものですが、以前にも書きましたが、人は非常に多くのことを周りの方々からいただいていると思います。そして、何かをしていただいたときとてもうれしい、これが一番目の「してもいい幸せ」です。

一番目は「できる幸せ」です。今までできなかったことができるようになるという。誰でも経験していることだと思います。

「内観法」では「してさしあげたこと」として思い出していくのですが、これがしていただきたいことに比べると驚くほど少ないものです。しかし、何かをしてあげたとき、そしてそれを人が喜んでくれたとき、とてもうれしい。食後の食器洗い、ゴミだし、友人に何かを貸してあげる、ものを落としたりひろってあげる、道を聞かれたら教えてあげる。少ないながらもいろいろあるでしょう。

この話をした人は、この三番目のことが日々にかけられるようになり、この喜びを感じられるようになると、人生はどんどんよくなると言っています。なぜよくなるのかと「いい」「してあげる幸せ」を感じとれるようになると、その人の周りにも同じような「人のいい」人が集まってくる。その人達と人生を歩むことができるようになるからだと書いていました。自身の周りをよく観察してみるとそのような人達が実際にいることが分かります。

紹介が長くなりましたが、やはり、人から何か

をしてもらうだけ、自分さえできればいい、これではよい人生にはならないと思います。私自身きずんとできていくわけはありませんが、身近なことでもいい、何か人の役に立てるようになっていきたいと思う次第です。(長谷川)

ネコのいる幸せ 2

「ミキ」とその兄弟達の話が続きます。日野動物病院とインターフェロンのおかげで、三匹とも命はとりとめた。生後一ヶ月もたないネコ達が、お互いに体を寄せ合って遊んでいる様子は、本当に可愛い。じっと見ているとなんとも幸せな気持ちになる。しかし、我が家の子供達は辛抱ができない。すぐちょっかいを出して、手のひらにのせたり、抱っこしたり…。まったく、落ち着かない奴等である。一方私は、インターフェロン他の治療費を全て負担して、今後の養育費も心配して、自分の小遣いを減らすことまで真剣に考えているのだから、家族の誰よりも、子ネコ達と遊ぶ権利があるのだ。というところで、実は私もちょっかいを出した。イヤ、権利を行使した。私は、自分が仰向けになって、お腹の上に子ネコをのせるのが好きなのだ。三匹が動きまわって、顔のあたりをペロペロさ

れたりしたら、もったまらない。よし、絶対この子ネコ達を育ててやるぞと、決意を新たにするのであった。

さて、元気になった三匹の子ネコ達。家の中だけではかわいそうだということで、時々自宅前の公園に連れて行くようになった。近所の子供

達もネコ好きで、いつの間にか集まって来てみんなでネコと遊ぶのであった。「おじちゃん、ネコ抱っこさせて」「エサあげていい?」主たる養育者であり、心優しい人間である私は、子供達の要求を全てかなえてあげるのであった。

突然、悲劇がおそった。三匹のうち、白いネコと黒いネコの様子がおかしくなった。一日、様子をもてなかな元気がならない。車を日野動物病院までとばし、駆け込んだ。インターフェロン、インターフェロン…。手遅れだった。原因は、体力と抵抗力がない状態でそと遊びをさせたことによる何らかの感染…。ネコのことは何でも分かっているつもりで、かわいそうなことをしてしまった。本当に申し訳ない。

その中で生き残ったのが、「ミキ」である。今、思えば三匹のなかで「ミキ」だけはいつも元気だった。顔は、キャットフードの「キャラット」の箱にのっているネコの絵にそっくり。毛の色はこげ茶をベースに黒と白の毛が少し混ざっている。風呂に入るときは、必ずついてくる。ガーデニングをしているときは、外にでてずっと座っている。はつきりいつて自慢です。

ミキのおかげで私は幸せ度アップ!そして、私の用が一段落すると、私と「ミキ」だけの遊びがひかえている。彼は、床の上でも、道路の上でも、私の前にいるときは仰向けになるのだ。そうすると、私は彼のおなかを私の足でなでてあげなければならぬ。手ではダメ。必ず足の裏でないとけない。長いときは、二十分位。そのときは、私はずっと片足立ちである。ほんとに疲れるのだ。これをしないと許してくれない。いつか、バランスを崩して、踏んづけてし

まつことだけが心配である。仰向けに寝ている「ミキ」に時々、気付かない振りをする、そのときの反応がまた面白い。仰向けのまま、あるいは、体を横向きにしたまま、私のほうへにじり寄ってくる。こんなネコはいないよね。他の家族の誰にも、こういうことはしない。やっぱり、インターフェロンの恩は忘れていないのだ。 ……以下次号。(小林)

親子の関係は休載です。

創学舎から本が出ます

受験生は読め! (合格のヒケツが「これ」にある)

勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。一般的なノウハウ本とは一味ちがったアドバイスを満載しています。

書店発売はありません。希望者には無料で差し上げます。

愛の壁 お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか

創学舎ニューズの編集責任者 小林が二十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

製作に遅れが発生しまして発売が延びました。五月十日前後に、「小林憲右」の名で全国書店で発売となります。

卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば、創学舎ニューズを無料でお送り致します。在籍した教室までご連絡下さい。

親子の関係はネコのいる幸せ終了後再開の予定です。